

SUPPORT NEWS

あなたの想いを、私の想いをかたちにしたい・・・

地域福祉の観点からだれもが自分らしく生きていける社会を目指します。

NPO法人 地域福祉サポートちた

西日本豪雨により、犠牲になられた方、被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます
(「西日本豪雨災害支援へ寄付協力のお願い」は5面参照)

□通常総会・会員交流会のご報告……………	1-2P	□愛知県内支援センター情報交流会……………	5P
□「中学生レストラン」が今年も開店！……………	3-4P	□JCNEグッドガバナンス認証制度……………	5P
□実践 人材マネジメントセミナー……………	5P	□インフォメーション……………	6P
□知多市 ちた未来塾2018……………	5P		

通常総会、会員交流会のご報告

2018年5月29日、於知多市市民活動センターにて当法人の通常総会を開催、総会員数61（団体28、個人33）、出席41（内、委任状19）をもって2017年度事業報告及び決算、役員選任、定款の変更についてご承認いただきましたことをご報告申し上げます。この一年をふりかえり、改めて「何のために私たちは活動するのか」を念頭に、今年度も引き続き「0～100歳の地域包括ケアのまちづくり」を推進してまいりますので、よろしくお願い致します。



会員、一般市民、行政、社協職員、スタッフを含め55人が聴講した

さて、通常総会終了後の会員交流会には、日本福祉大学社会福祉学部教授原田正樹さんをお迎えし、当法人が目指すまちづくりの方向性と国の最新動向について、また、地域包括支援体制構築のための研究プロジェクトが大学と知多地域連携のもとに始まっていることをご報告いただきました。なお、原田先生の講演録は以下の通りです。

□はじめに

地域包括ケアが目指すものは「0～100歳のまちづくり」を掲げる地域福祉サポートちた※（以下、サポちたと表記）の実践と提言そのもの。以前、サポちた理事の皆さんから「私たちが目指す地域はセーフティネットではなく、セーフティシート。ネットだと網目から零れ落ちてしまう。ただ、大きすぎるシートは破れやすいから小さなシートを張り合わせる必要がある」。そして、むそうの戸枝さんによると、地域が必要としているのは「大型豪華客

船」ではなく「連帯型のいかだ」とも表現される。小規模な活動ゆえにネットワークが重要になってくる。

□少子高齢・人口減少社会と社会保障制度の破綻

日本は確実に人口減少社会を迎える。そして、全国の都市が半分近くになると想定され、それらは消滅可能性都市とも呼ばれる。知多半島内では美浜町、南知多町も指定された。大きな変化に合わせて制度や枠組みを変えて行く必要がある。

国の施策は、団塊の世代が75歳を迎える2025年の次を見据え、2040年をキーワードにワーキングチームが動き出した。2040年は、団塊の世代のジュニアが75歳の後期高齢期を迎える社会の到来。何歳になっても元気で過ごせることが理想だが、現状では75歳以上になると約3割が要介護になる。2025年との違いは何かというと、2025年は団塊の世代とほぼ同数のジュニアがいる。同居でなくとも遠方から心配の声掛けができる家族や地域といった関係性が残る「つながりがある社会」。これに対して2040年は、ほとんどが単身者であり、地域との「つながりを持たない世代」が高齢期になった時、どんな社会保障が必要になってくるのか？

□地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制

特別養護老人ホーム入所要件が要介護3以上のため、一人暮らしで認知症の要介護2の人が地域で安心して暮らせるまちが2025年モデルの地域包括ケアシステム。身体的な介護が必要ない認知症であれば、見守りと生活支援が必要になる。まずはこのレベルの人が安心して暮らせる地域になっているかどうか、そうでなければ具体的に検討を積み上げなければいけない。介護保険は個人契約の下（次頁へ）

(前頁より)に成立する制度ゆえに介護と育児が重なるダブルケアの問題や、8050といった複合的な問題を抱えた家族の場合、あるいは障害のある人が65歳以上になった時に必要な切れ目ない支援、また、社会的な孤立や生活困窮者等それぞれ立場が異なるため、地域ケア会議では徹底して事例を検討し、積み上げていかないと既存の制度では解決が困難になる。地域包括ケアシステムは、医療と福祉の連携といったスローガンではない。目標や対象をきちんと明確化して地域の中で検討していく。つまり、具体的な個別ケースが地域で支えられることを丁寧に考える必要がある。

国の政策、社会保障改革の流れは「地域共生社会」。まさに知多半島で積み上げてきた「0歳から100歳のみんなをみんなで支える」という考え方。ただ、地域医療介護確保法（地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律）第2条において「地域包括ケアシステム」とは、“高齢者”を対象として定義づけされたため、この4月からは高齢者だけではなく、障害、児童、生活困窮も含めて「包括的支援体制」と法定化された。

□地域共生社会の理念

「ありがとう」と言い合える関係のあるうちは良いが、日本は歳を重ね、役割がだんだんなくなってくると「すまないね」「ごめんね」と言って看取られる。たとえ認知症や寝たきりになっても、例えばその人の存在が誰かを励ます役割をもつ。大事なことは、役割をもち続けるというコンセプトが根底にあること。支援とは、支え手と受け手側に分かれるものではない。しかし、2000年以降に介護保険制度が始まって、サービスが優先され、地域のつながりがなくなってしまう。専門職が、介護サービスユーザーとして「利用者」に分けてきた。介護の市場化が全面的に悪いとは言わないが、地域福祉のあり方を問い直し、社会の中で役割や参加がある地域福祉を協働して推進する必要がある。社会福祉法第4条第2項には、「参加する機会が確保される上での各般の課題（以下「地域生活課題」という。）を把握し、地域生活課題の解決に資する支援を行う関係機関（以下「支援関係機関」という。）との連携等によりその解決を図るよう、特に留意するものとする。」と明記されている。

□地域生活課題とは何か？ 3つのポイント

① 生活保護のみ、世帯を単位に支援するが、それ以外の制度は個人を対象にしている。8050といわれる問題も世帯単位で解決する必要がある。

② マイノリティゆえの社会的孤立がさらに自殺や貧困に追いやる原因とされている。

③ 人格と個性を尊重し合う共生社会の実現のための合理的配慮の提供、障害者差別解消法も存在するが、あらゆる分野への参加が求められている。

そこで、社会福祉法改正案第6条には行政も地域福祉に関わらないといけないという責務が位置付けられた。具体的に行政は「地域包括支援体制」を整備していくことになった。さらに、106条の2項も併せて読んでいただきたい。事業者の責務として市民や各セクターへ働きかけ「地域生活課題」の把握に連携して当たらなければならない。106条3項では市町村は地位包括支援体制を整備すること。そのために107条の地域福祉計画が的に推進していくためには、地域福祉計画が分野別計画の横串をさす役割になる。また、縦割りの領域を超えた支援ができるように、昨年3月から規制緩和が始まった。

□研究プロジェクトの背景

地域共生社会の実現に向け、大学として研究プロジェクトを立ち上げた。地域包括支援体制をどうつくっていくのか？

知多半島だからできる優位性をモデルとして、地域の皆さんと協働で研究していくもの。現在、本学は8学部が増えた。規模が大きくなっても、大学の中心は「ふだんの暮らしの幸せ」を研究し、学ぶ場をつくっていく。平和と民主主義を進めるために10のプロジェクト、「丸ごと」のアセスメントシートの開発から単身生活者の死後支援まで「知多半島モデルの地域包括支援体制」には必要であろう。

その中の福祉教育としてサービ斯拉ーニングがある。今年で9年目を迎えた。制度やサービスも大事だが、地域づくりの両輪には住民自治を進める市民育ても大事。専門職を育てるのは大学の役割、市民を育てるための市民の感覚は「大学とNPOが協働で行う」というのが趣旨。おかげさまで、その成果が出ているのではないかと思う。

※東海市から始まり知多半島圏域に広がった市民互助型福祉NPOがまちづくりを目指し、多様なサービスと多様な働き方を生み出しながらネットワークによる地域内循環の仕組みを指す。（文責 市野）

新会員紹介：☆☆☆.. *°☆☆ *°.. ☆.. *°☆☆☆☆..

【準/団体】一般社団法人 oneness 様

【準/個人】森戸力 様

☆☆ *°☆☆ *°.. ☆.. *°☆☆☆☆.. (2018年6月末現在)

■「中学生レストラン」が今年も開店！

Ada-codaの夏の定番といえば「中学生レストラン」ですが、今年も8月2,3日で開店します。毎年、2日間で80食が完売する大人気イベントの主演は、星槎名古屋中学校 料理部の生徒。彼らを指導する安部雅昭校長にお話を伺いました。

□星槎グループとは



料理部の顧問、星槎名古屋
中学校 安部雅昭先生

星槎グループは、幼稚園から大学まで、さらにはNPOとも連携した教育を柱とした事業を展開している。

グループのスタートは1972年。横浜市のアパートのひと部屋から、創立者の宮澤保夫氏が2人の生徒のため塾を開設したことに始まる。生徒一人ひとりの個性に向き合う教育方針は、40年以上

たった今も変わらず星槎の礎として受け継がれている。

□星槎名古屋中学校

星槎名古屋中学校は、平成24年、名古屋市の「旧名古屋市立六反小学校を活用した不登校対応の私立中学校誘致事業提案競技」において、学校法人国際学園が最優秀提案者として選定され開校に至る。名古屋駅から徒歩圏内というアクセスの良さもあり、生徒は愛知県全域にとどまらず、他県からの転入もあって、現在の生徒数は約240人。1年生のみ二人担任制で2クラス、年3~40人の転入増がある2,3年生は3クラスを設けている。心の発達のバランスと不登校は、切っても切れない関係にある。そのため、授業をこなし、ぐいぐいと引っ張っていくだけでは難しいため、全教員がNPO法人星槎教育研究所の心理カウンセラー資格を取得し生徒の心を理解するよう努めている。しかし、現在の公教育においては、健常児と支援が必要な子の2通りで学級を分けられてしまうことも多く、その支援の地域格差に憂慮している。

学校が嫌いだった学生時代「学校は楽しいもの

にしたい」という教育への思いが漠然とあった。社会人になって商社で働き始めた20代の頃、仕事を通じて星槎グループの存在を知った。その教育方針に感銘を受けて教員へと転身、同グループの高等学校や大学などを経て、同中学の開校と同時に教頭として赴任、三年目から校長に就任した。

□教育方針と評価

校長室は生徒が気軽に入室して、授業も受けられるように勉強机やホワイトボードが備えられている。授業とは「学びの理屈」が合っていれば善しと捉えている。例えば、理科は計算力を問う科目ではないので「計算機を使ってもいい」と指導している。たとえ暗算が苦手でも、計算機を使うことで、できる範囲が広がる喜びから、授業への意欲が上がるという。教育方針は「苦手なことを追求するのではなく、得意なことを伸ばすこと」。

さらに新しい取組として、小学校から中学校へ入学した際に勉強の難易度が上がる等の学校環境の変化から生じる「中1ギャップ」をなくしたいという思いから、今年の1年生は定期試験を取りやめた。教員への負担は大きいかもしれないが、成績の評価は「記憶力が求められる試験」ではなく日頃の生徒を見て評価していく。すると、2年生の保護者からも定期テストもなくして欲しいと声が上がった。将来的には、記憶が得意な生徒には筆記試験で対応し、そうではない生徒にはレポートや実技、もしくは、教科書を持ち込みした試験でも良いと考えている。

時代によって評価の形は変化している。実際に大学入試も記憶力だけを問うのではなく、考える力が求められてきている。こうした流れを受けて「個々を測る基準は、従来の記憶力だけを評価する試験に捉われる必要はないのでは」と語る。

□中学生レストランは表現の場

同校のクラブ活動は、生徒の要望に応じて同好会を立ち上げ、その後、部として昇格していく。星槎国際高等学校就任時の経験から「いつか生徒と一緒に、食に関わる何か出来れば」と調理師免許を取得していたこともあり、開校当初から要望があった料理部の顧問の一人となった。

Ada-codaとの出会いは5年前、講師として知多市を訪れた際に紹介され、生徒の得意を表現できる場になるのではと思い立ち、平成27年に中学生レストランを実現させた。飲食店の仕事の良いところは、調理だけでなく「チラシをつくる」「広報する」等の裏方の役割があり、いずれもが必要になる。学校ではいつもそっけない子が、中学生レストランという同じ目的の中で自分の役割を持つことで、仲間への配慮や面倒見の良さを発揮する等、意外な一面を見受けられることが楽しみになっている。

一般のお客様の生の声がある場その場で聞くことができる中学生レストランは、“中学生だから”ではなく、お金を頂くからこそ料理や接客に対してきちんとした評価をもらいたいという「やる気」につながっている。「おいしかったよ」という言葉は、生徒たちの自尊感情を高めてくれる。営業が終わる頃、生徒たちの疲労感ピークに達しているにもかかわらず、それ以上に達成感があるようで「疲れたけど、やりがいあったよね！」という生徒の一言が何よりも嬉しい。

★中学生レストラン★

星槎名古屋中学校の料理部です。中学生レストランは、生徒がシェフとなって料理をふるまいます！どなたでも召し上がっていただけます。ぜひ食べに来てください！

日程：8月2日(木) 洋食
3日(金) 和食
予約時間：①12:00～
②13:00～

場所：地域福祉サポートちた Ada-Coda

1食¥800
各日限定40食

★MENU★

8/2 洋食

- ・煮込みハンバーグ
- ・サラダ
- ・コーンスープ
- ・ライス
- ・シフォンケーキ

星槎名古屋 応援 ください

絵が得意な生徒がデザインした今年度のチラシ

今年度の部員数は20人を超えた。当初は料理未経験、包丁すら握ったこともない子が多く、作業分担や切り方の指導、味付けを決めるまで、個性豊かな生徒をまとめるのは大変だが、自分で料理すると苦手な食材を克服していく成長を見るのが楽しい。そして、一人で料理をつくることのできるようになれば、将来の自立にもつながるだろうと応援する。

人との関わりが苦手な職場体験に出られない生徒もいるため、校内カフェでは外部講師を招いて接客の仕方などを学んでいる。また、夏の中学生レストランの練習を兼ねて、保護者会でもランチを提供している。社会的刺激を受ける中学生レス

トランとは一味違うようで、親から「美味しい」と言ってもらえることの喜びをかみしめている。親にとっても、わが子の成長を肌で感じられる良い機会になっている。



昨年度の中学生レストランの厨房の様子

ゆくゆくは、星槎名古屋中学校の店舗を構えて、生徒の実習を兼ねた働く場として就労移行ができるような場

所にしたいと考えている。そして、高齢化が進む同学区内の多世代交流拠点として、校内外はもちろんのこと、生徒も地域の高齢者も行き交い、双方が交流できるカフェができたらと、将来の目標を語った。(安藤)

手づくりカフェAda-coda

◆◆ 夏のイベントのお知らせ ◆◆

□星槎名古屋「中学レストラン」

- 日程 8月2日(木) 煮込みハンバーグ
3日(金) まぐろのテールステーキ
- 時間 ①12:00～②13:00～(各日40食限定)
- ランチ代 800円(別途ドリンク100円)

□金城学院大学「女子大生レストラン」

- 日程 8月22日(水) (定員20名)
- 時間 11:00～レクリエーション
・バルーンアート 他
12:00～ランチ(サラダうどん)
- ランチ代 大人500円 未就学児300円

手づくりカフェAda-codaは夏休み期間、7月21日～9月3日迄お休みさせていただきます。9月4日(火)より通常営業致します。ご予約、イベントに関するお問合せは、電話 0562-33-1631まで
担当：竹内・安藤

■実践 人材マネジメントセミナー

毎年恒例の新入社員研修「社会人1年生のための対人の心得と接遇の基本」を4月27日、認定NPO法人絆 鈴木真由美さんをお招きし、仕事に取り組む姿勢や基本的なビジネスマナーを学んだ。今年度は、新たに「先輩」となるスタッフのための研修として「先輩ができたあなたのための後輩とのコミュニケーションとマネジメント」を5月2日、NPO法人起業支援ネット 久野美奈子さんを講師に、職場でよくある困りごとの事例に沿って、グループワークを交えながら学んだ。

後輩指導の目的は、後輩をなんとかすることではなく、チーム全体としてよい仕事ができるようになることであり、正解がないからこそ、より多くの選択肢を提示することが必要になる。事後、「個人の価値観だけに基づく指導するのではなく、組織の理念を共有して行動すること」との気づきが挙げられた。(安藤)

■知多市 ちた未来塾2018

5月26日入塾式を開催したちた未来塾は3年目を迎えた。高校生6人、大学生2人、社会人3人の計11人に加え、サポーターとして、はんだU22やちた未来塾の1期生が参加、年齢や経験が異なる若者15人が、多文化共生、豊かな自然環境と子どもの育ち、自然栽培に取り組むNPOでのフィールドワークをきっかけに、目まぐるしく変化する社会に対応するために「自分たちは、自分たちの未来のために何ができるのだろうか」ということを今夏、みんなと一緒に考え、8月24日の卒塾式にて各人の「学び」を共有する。(市野)

西日本豪雨災害支援へ寄付協力をお願い



公益財団法人みんなでつくる財団おかやまでは、岡山県内で発生している「平成30年台風第7号及び前線に伴う大雨による災害」に対する支援寄付基金「ももたろう基金」を設立

●郵便振替

〈口座番号〉01320-6-109961

〈加入者名〉公益財団法人みんなでつくる財団おかやま
 〈通信欄〉「ももたろう基金」、寄付金額、氏名、住所、連絡先、メールアドレスを明記ください。

●現金

「ももたろう基金」募金箱を当法人事務所内にて設置
 NPO基礎講座8月19日の講師石原氏にお渡します！

■愛知県内支援センター情報交流会

7月10日、有志5団体により愛知県内支援センター情報交流会を開催した。



「あいちNPO交流プラザにて支援センター職員や行政担当課ら62人が参加

地域の支援センターの役割どころとして地域課題への取り組みが求められている反面、アウトリーチ型支援による市民活動の推進に対する意識と実態のズレがあると三島氏(ボランタリーネバース)が話題提起した。続いて、県担当課よりNPOと行政の協働に関する実務者会議「中間支援組織によるアウトリーチ型支援の取組状況」を報告、みよし市市民活動サポートセンターにおける地域活動団体へのアウトリーチ支援の事例を共有したのち、地域課題とアウトリーチについて意見交換した。

地域との関係づくりや人材育成等について全体で共有、雑談の時間を設けたり、団体に地域の中での役割を意味づけし、気づいてもらう等のキーワードが上がった。今年11月、一宮市市民活動支援センターにて交流会が開催される予定。

(竹内)

■JCNEグッドガバナンス認証制度

7月14日、日本財団にて(一財)非営利組織評価センター(JCNE)が主催するグッドガバナンス認証制度の説明会が実施された。



これは、非営利組織のグッドガバナンス認証信頼性を評価、認証する

「第三者組織評価制度」が改称されたもので、今年度からは書面提出+訪問評価によるアドバンス認証が新たにスタートする。アドバンス認証では、①学びと創造、②自立と自律、③市民参加と連携・協働、④社会的責任と信頼という4つの観点から、27の評価項目が設けられている。

認証された組織は、右上図の「認証マーク」を掲示して、支援を受ける市民、助成団体、企業、政府・自治体に対し、信頼できる組織であることをアピールすることができる。サポートちたでは、本制度の説明会を今年度内に実施する予定。

(伊藤)

サポちた インフォメーション

会員さんなどから集まる情報をお知らせします。お気軽に情報をお寄せ下さい。

■中部圏地域創造ファンド フォーラム

NPO等民間公益活動への資金の流れをどうつくるか！

〈日時〉8月5日(日) 13:30~16:30 (13:00受付)
〈会場〉名古屋国際センター別棟ホール(150名先着順)
〈内容〉基調講演テーマ:休眠預金等活用制度の基本方針について~休眠預金等活用審議会での論点~
〈問合せ〉(一財)中部圏地域創造ファンド ☎052-228-0350
※(一財)中部圏地域創造ファンドは、あいちモリコロ基金の後継基金としてNPO等民間公益活動の発展を支援し地域や社会の課題を解決するために平成30年2月15日に設立されました。

■打壇団~だだんだん~ ハジケロこの夏

〈日時〉7月27日(金) 14:30~16:00 (14:00開場)
〈会場〉知多市勤労文化会館2階 リハーサル室
〈内容〉“無脳楽音楽人”高松信友がプロデュースする、言葉を介さない打楽器だけを使ったフリーセッションスタイルの無条件肯定型打楽器ワークショップ 子どもから大人まで誰もが思いっきり楽しめる内容
〈問合せ〉(N)びすた~り ☎0562-85-1185(浅田純歌)

■ゆいの会 子ども向け「夏休み手づくり体験講座」

〈期間〉7月21日~9月1日 ※申し込みは先着順
〈会場〉ゆいの会 (知多市新知字西屋敷22-2)
〈対象〉小中学生
〈内容〉さをり織り,習字,絵手紙,手芸,パステルアート,陶芸,ハーバリウム,入浴剤作り,クッキー作り&ゲーム
〈問合せ〉(N)ゆいの会 ☎0562-32-5906(詳細HP参照)

■第9回 絆まつり「出会はここから♪LIFE & MUSIC」

〈日時〉9月8日(土) 11:00~14:00
〈会場〉絆 (東浦町緒川北赤坂35-1)
〈内容〉子ども和太鼓「巴」の演奏でまつりがスタート。野外コンサート,楽器作り,ハワイアン,さをり織り体験
〈飲食〉焼き鳥,焼きそば,みたらし団子,カレーライス,生ビール(飲酒される方は車でのお越しはご遠慮下さい)
〈問合せ〉(認N)絆 ☎0562-83-7563

■防災啓発ドキュメンタリー映画「いつか君の花明かりには」

〈日時〉10月13日(土) 14:00開演 (13:00開場)
〈会場〉知多市勤労文化会館 つつじホール
〈参加費〉前売700円、当日1,000円(高校生以下500円)
〈申込/問合せ〉いつはな知多上映会実行委員会
メールitsuhanachita@gmail.com

◇◇知多地域成年後見センター◇◇

■権利擁護サポーター講座 (受講無料/定員 40名)

認知症になっても、障がいがあっても、地域で自分らしく生きていくためのお手伝いに必要な基本知識を学ぶ
〈日時〉9月7日~11月16日 13:30~16:30
毎週金曜日 全9回
〈会場〉阿久比町中央公民館 研修室202
〈内容〉障がい等理解や制度の概要と実態、同行訪問等

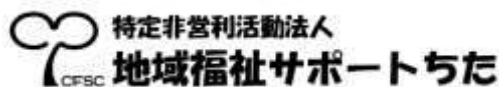
■知多半島ろうスクール (定員30名)

今年度は半田市で開催！自分らしい生き方・老い方と生活を守るための制度や法律を学校形式で学び合う講座
〈日時〉10月11日~11月22日 13:00~16:30
毎週木曜日 全7回
〈会場〉第1回は半田市役所 3階 会議室301
〈参加費〉入学金2,000円 1回につき1,000円
〈申込/問合せ〉知多地域成年後見センター
☎0562-39-2663 メールchita-koken@ma.medias.ne.jp

◇◇サポートちた◇◇

■NPO基礎講座 @知多 (参加費無料/定員20名)

①講義/社会背景とNPO基礎知識
8月8日(水)19:00~20:30 (講師:市野恵)
②講義/みんなで作る“まちづくり”
8月19日(日)15:00~17:00 (講師:石原達也さん)
③フィールドワーク/上村さんの案内で 八幡まち歩き
9月8日(土) 10:00~12:00 (講師:吉村輝彦さん)
〈①②③会場〉知多市市民活動センター 担当:市野



〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1
知多市市民活動センター1階
TEL 0562-33-1631 FAX 0562-33-1743
メール spchita@ams.odn.ne.jp



◆地域福祉サポートちた
HP:cfsc.sunnyday.jp/
FB:facebook.com/sapochita/

◆手づくりカフェAda-coda
HP:cfsc.sunnyday.jp/01-adacoda/
FB:facebook.com/Adacoda.cafe/